

一一、選挙異議申立に於ける吾黨の態度

二一

吾黨は、民憲黨がいかに階級的裏切りを取てし、無産階級道徳を踏破らうとも、既成政黨よりは遙かに、無産階級の爲めになるものであることを否認するものではない。従つて、さうすることが八幡勤勞無産市民の利益と幸福への路であるならば、吾黨は、何時にても彼と共同の戦線を張ることに不忠實なるものではない。

さればこそ、吾黨は、昭和四年五月十一日の初市會に於ける議長、副議長の選挙に當つては、彼と合流して、議長に吾黨安日議員を、副議長に民憲黨三浦議員を一致して推したのである。勿論、勝敗の数は選挙以前より明らかなる處であつて、議長副議長共に二十二對十四で容しく葬られはしたが。

斯くすることは、單に兩黨の無産黨としての當爲の行動たるのみならず、また八幡勤勞無産市民に對する必然の責務であらねばならぬ。無産派は、悲哉、小數である。吾黨は、出来るだけ彼と協調し和衷して、無産市民のため及び民衆政治のため共同の戦争を爲さねばならぬと深く堅く心に誓つたのであつた。然るに、何事ぞ!!共同の戦陣に立ちたる同日に於て、至公至明の正論を吐きたる吾黨に對し、而も公開の市政批判演説會に於て罵詈雑言、讒侮中傷、殆ど聞くに堪へざる攻撃を爲さうとは!

事件は選挙に關する異議申立に發足する。吾黨は、彼等が口に社會正義を説き、ブルジョア道徳の打倒を叫ぶも、其の爲すところは總て黨利黨略本位であり、而もその黨利黨略たる無産階級にとつては百害あつて一利なきを發見したるが故に、異議申立に關する審査委員會に於て、吾黨委員をして民憲黨委員の所説に反對せしめたのであるが、彼等は吾黨が彼等の私利のために闘らなかつたといふので、五月十一日より十三日までわざわざ市内六ヶ所に市政批判演説會を開催して、市會の事情を知らざる大衆に向つてあらゆる吾黨の逆宣傳を誑みしたのである。

吾黨は、彼等の惡計に依る大衆の誤解を釋き、更らに彼等の階級的裏切りの真相を曝露すべく聲明書二万枚を刷りて全市に配布したのであるが、吾等は、今其の聲明書によつて事件の經過及び醜汚唾棄すべき彼等の心術を詳細に語るであらう。

聲明書

民憲黨の演説會で社民攻撃を御聞きになつた大衆諸君はどうぞ最後まで御精讀下さい

無産階級道徳の裏切者、解放戦線統一の破壊者民憲黨一部幹部を全日本の階級戦線より追放せよ!

彼等の在る間北九州無産階級の解放は絶對にあり得ず、

五月十一日より十三日までの市内六ヶ所の彼等の所謂、政戦感謝演説會を傍聴するに、政戦感謝はつきたりで、其内容は擧げて、惨敗の泣言繰言に非ずんば、故意に悪くみから吾黨を毀け以て敗戦の勝癒せを圖らんとする民憲黨獨特の惡口演説である。

惡口、毒舌、逆宣傳、そのみが彼等の最大にして而も唯一の武器だ吾等は、衆議院に、戸畑市議院に其他一切の機會に、彼等からありとあらゆる毒舌中傷を受け、或は時に——甚だしば——有りもしない逆宣傳を全身に浴びながらも、彼等と雖も一個の——言ふに足りない微弱なそして地方的なものであるが——無産政黨なるが故に、お互無産黨同志の不和は、徒らに既成政黨に乗ぜられる間隙を與ふるが故に、忍ぶ可らざるを忍び、堪へ難きを堪へ來つた。他から見れば殆ど馬鹿正直と思はれる位、たゞ熱涙に唾み、唇を噛んで、じつと我慢をして來た。何故か?無産政黨同志の喧嘩はそれだけ無産階級自身の力を削ぐからだ解放戦線の統一を妨ぐるからだ。

此の度の八幡市議院に於ても、吾等は口を慎み、民憲黨とは出来る限り好意的連繫を保ちつゝ戦を續けたのであつた。また去る十一日の初市會に於ても、吾等は從來の友宜的態度を失はず副議長選挙には社民九名舉つて民憲黨三浦愛二君を推したのであつた。斯くすることが同じ八幡の無産勤勞階級を代表する無産黨同志の道徳であり共同戦線への第一歩であると考えたからだ。

然るに當日の選挙に關する異議申立の審査委員會に於て、二區及三區に股がる所謂二重投票の問題に就いて委員一同は先づ市役所の有権者名簿を調査したのであつた。然るに、民憲黨の所謂二重投票者は住居を兩區に持つものであるか若くは近日轉居したるが爲正確なる住居の不明のものであつて、帳簿を見るに、かゝる者はどちらか一方の區に於てのみ投票權行使したるものであることは、一つの區の名簿には割印が捺されて居り他の一つの區即ち投票せざる方の區の名簿には本人の氏名は張紙に依つて抹殺せられて居ることに依つて明かに証據立てられ従つて吾黨委員は、斯く、重